

平成 23 年度 第 8 回病院局経営戦略会議概要

日 時：平成 23 年 11 月 7 日（月） 午後 3 時 00 分～午後 4 時 50 分

場 所：県庁 10 階 病院事業管理者室

出席者：病院局 病院事業管理者，病院局長，総務課長，
経営企画課長 ほか

病院 各県立病院長，中央病院副院長，
各県立病院看護局長，各県立病院事務局長 ほか

(1) 平成 23 年度決算見込み（9 月末）について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成 23 年度の決算見込み（9 月末時点）について示す。

(2) 「医療の確保と健全化をすすめる会」の事前プレゼン

【説明】病院局総務課 政策調整担当

平成 23 年度第 1 回医療の確保と健全化をすすめる会の全体構成等について説明する。

【説明】病院局経営企画課 施設整備推進室

新中央病院改築事業の進捗状況及び三好病院高層棟改築基本設計について説明する。

【説明】病院局総務課

徳島大学病院と中央病院との間において，機能整備をはじめとした交流を深め，県内医療の総合拠点化を図る「総合メディカルゾーン構想」の検討状況について説明する。

【説明】中央病院

今後の機能充実として，「小児・精神を含む救急医療」，「周産期医療」，「がん医療」，「災害医療」など県民ニーズに応えるための医療機能について説明する。

【説明】三好病院

「地域がん診療連携推進病院の指定」，「DPC の導入」，「地域医療支援病院の承認」等，新病院に向けて，三好病院において現在進行中の取組について説明する。

【説明】海部病院

海部病院の今後の機能充実として，基本方針である「医療機能の充実」，「災害拠点病院としての対応」，「研修体制の整備」について説明する。

【質疑等】

病院局：総合メディカルゾーン構想の説明の中で、西部と南部のメディカルゾーンセンターについても位置づけているので、その後どうしていくのかという説明がないといけないのではないだろうか。三好病院及び海部病院の医師不足や地域医療再生基金の期限が切れるといった課題がある中で、徳島大学とどのような方向性でメディカルゾーンについて検討していくかという考えをプレゼンで述べないといけないのではないか。

病院局：医師の派遣や養成については徳島大学に設置した地域医療支援センターでどうしていくか検討に入ったところである。

管理者：3病院あって、病院規模はそれぞれ大・中・小あるが、大きく分けると、「中央病院」と「三好病院及び海部病院」となる。特に、三好病院と海部病院は人的問題に関しては受け身的な要素が強い。環境の違いはあるが、三好病院も海部病院のように若い人が希望するような、また、キャリアアップできるようなポイントを出して行ってほしい。また、中央病院は人材を育成・派遣するサイドであり、3病院の中では中核的な存在になる。さらに、大学と連携して、独自性のあるメディカルゾーンを拡大していかなければならない。

管理者：基本的な考え方として、3病院がそれぞれどのような役割を担うかということに尽きる。海部病院はプレゼンにもあったような方向性で継続してやっていくしかない。三好病院は海部病院の要素も取り入れた上で、救急について、どれだけの規模にすれば効率的になるのか考えないといけない。それと、地域医療支援病院の承認をできるだけ早く得られるようにしないとけない。紹介率及び逆紹介率を上げて、地域との連携を更に深めていくように。また、入院患者については、長期で対応していくことも必要だが、慢性患者を受け入れてもらえるように地域の病院に働きかけることによって、連携を進めて行ってほしい。適切な病院規模というものを考えていかなければならない。三好病院の病床数については200床が基本ではあるが、7:1看護を取得する上で、もし必要であれば休床も考えないといけないだろう。紹介率を上げて、地域医療支援病院の承認を取得すれば、場合によっては200床を切っても良いのではないだろうか。入院患者が増えるのは良いが、入院期間が1か月以上の患者が多い。これは入院単価を上げていく上でマイナスである。平均在院日数の短縮と入院患者数のアップは相反するようで違うと言われている。長期の入院患者を減らすことで両方の実行が可能である。短兵急にはできないが、徐々にそういう方向へ向かっていくように。また、若い医師が10人いれば、そのうち1～2人でも来るような環境整備を海部病院を参考にして進めてほしい。医師の絶対数が不足していることはもっともであり、足りないのを一気に増やすことは難しくても、踏み込んだ対策を取っていかないとけない。

三好病院：そういう方向でやっていかなければならないし、200床という病床数に必ずしもこだわっているわけでもない。地域連携は3年間やってきたが、ただそれを支える医師がいない。人材の確保のために地域医療支援センターをもっと具体的に活用してほしい。大学内に置いたみたいだが、大学の派遣機能がどうなるかが見えない。また、県としてどうしていくのかも見えない。大学に置いて、これからどうしていくのか。

病院局：地域医療支援センターは11月1日に立ち上げところである。具体的には、医師の育成・キャリアアップ・派遣等について、これから委員に入ってもらって検討していく。

三好病院：病院局として、地域医療支援センターについてどういうビジョンがあるのか。大学におんぶにだっこではいけない。もっとアピールしていく必要があるのではないか。

病院局：検討会に出て、医療政策課と話し合いながら進めていきたい。

三好病院：県としてどうするのかというところを出してもらえると我々も元気が出る。

中央病院：地域医療支援センターについては、私も病院局としてやってもらいたいが、医療政策課マターである。地域医療支援センターが地域卒の卒業生の受け皿となるように期待しているが、全国15か所の地域医療支援センターにおいて、大学が委員長をしていて大学主導に見える。なかなか大学当局を動かすのは大変だと思う。

管理者：地域医療支援センターの考え方として、従来通りの大学の囲い方ではなく、育成・派遣の場となるように、県立病院を中心として、後期研修で受け入れていく。主体的に活動していくしかない。地域卒で出た医師がどう動くかまだ見えないが、大学と連携して、ある程度主体的に中央病院なら中央病院の独自性を出して行ってほしい。大学では臨床医は育たないので、中央病院が独自性を出していく必要がある。その時に病院局としてどうかかわっていくかだ。

病院局長：中央病院が急性期病院、三好病院が四国中央部の拠点病院、海部病院が地域中核病院という3病院それぞれの方向性を受けて、課題である医師の確保等について、病院局としてどうしていくのかという説明を入れられないといけない。大学の寄附講座が平成25年度まで、一方で、地域卒を卒業した医師は平成27年度からであり、このブランクをどうするか。知事からもどうするか検討するよにとの宿題が出ていた。中央病院を中心として、前期研修医を含めて、メディカルゾーンに来てもらえるように。県立病院としてドクターを確保していかないといけない。

三好病院：そのシステム作りをどうするかであるが。

病院局長：大学も医師を派遣するのは無理と言っている。各病院で人材を育て

るような環境作りをしてほしいと言われている。

三好病院：三好病院の規模では循環器内科なら循環器内科，脳神経外科なら脳神経外科というように特化しないと，病院全体の環境整備というのはなかなか難しい。

中央病院：管理者が言われるように，選択と集中が重要である。中央病院では救命救急センターをどうするかとよく言われているが，看護師をどうするか，どういう資源を投入していくかといった課題について，覚悟を決めないといけない。今年度は無理でも，平成 25 年度あるいは平成 26 年度にできるようなビジョンを示して描けるか。病院と病院局が共に見せていかないといけない。

管理者：新しくできた地域医療支援センターは徳島大学に形式的に主導権があっても，実質的には中央病院が中心となってやらないといけない。

三好病院：県が全部引き受けるというくらいの意気込みで言わないと。

病院局長：各病院の方向性に対して，病院局がどのような支援をしていくかという内容のプレゼンについて，もう一度考えてみてほしい。